

新製品 新技術紹介

『触感印刷-革シボ調-』

山田 幸雅

株式会社名栄社

製造本部 管理課 主任 生産技術

〒452-0822

名古屋市西区中小田井四丁目271

TEL:052-501-5919

URL: <http://www.meieisha.co.jp/gaiyou.html>



【はじめに】

令和4年度名古屋市工業技術グランプリにおいて、当社が応募しました「触感印刷-革シボ調-」が「公益財団法人名古屋産業振興公社理事長賞」を受賞したことは大変名誉なことであり、心より感謝申し上げます。

自動車業界での採用を想定し制作した本製品ですが、この受賞を励みに業界問わず幅広い分野で活用できるように当社としても更なる技術向上を図りたいと考えています。

【会社概要】

昭和34年の創業以来、銘鋳屋として「製版—印刷—加工」と一貫製造してきた当社ですが、平成16年の超高压成形機導入を期にプラスチックフィルム成形への挑戦を始めます。

従来から培ってきた製版技術と印刷技術を用いてフィルム成形の強みを前面に押し出し「加飾部品製造業」として独創的かつ先端的なものづくりを目指します。

【開発の背景】

これからの自動運転へのシフトチェンジは自動車の在り方を変え、乗り物ではなく移動するリビングルームという認識になるかもしれません。空間づくりにおけるデザイン性において印刷の需要は高く、当社もこれまで木目調や石調、メッキ調印刷、次項でも紹介

するデッドフロント印刷(光透過性意匠)など幅広く展開してきました。しかしこれらの技術はポピュラーであり、他社でも活用される技術です。

そこで本製品では、視覚的なデザインではなく「触感」をテーマに制作しました。従来培ってきた製版技術、印刷技術を活かし、視覚的なデザインだけに留まらず、「触覚」という側面からもアプローチし、これまでにない新しい印刷「触感印刷-革シボ調-」の完成へと至りました。

【技術の概要】

「触感印刷-革シボ調-」ではこれまで印刷では表現が難しかった「触感」という部分にスポットを当て制作しています。特徴は大きく分けて次の3つです。

(1) 触感

柔らかい触り心地が特徴のインキを活用し、印刷に「触感」という付加価値を付与しました。そこに創業当初から築いてきた製版技術、印刷技術が合わさることで「革のシボ感」を再現し、レザー調の印刷が完成しました。



<茶革デザイン>

(2) デッドフロント(光透過性意匠)

これまで本革の代替として合成皮革などの代替品がありました。しかし印刷により代替したことで、カラーチェンジは容易であり、さらにバックライトの点灯で光が透過するデッドフロント効果の付与など、印刷ならではの技術を組み合わせることで新しい革代替に仕上がりました。

(3) 成形性

基材であるプラスチックフィルムに革シボ調印刷を施すことで、触感やデッドフロントをそのままに3次元への立体成形が可能となりました。



<デッドフロント(光透過性意匠)と
立体成形>

【今後の展開】

「触感印刷-革シボ調-」を発表してから早1年が経ちますが、現在では本製品で使用しているシボ柄デザインのほか、新たなデザインパターンも続々と完成しています。

また次の取り組みとして耐久性評価の試験実施も検討しています。特に人の手が触れる部分での採用を想

定する製品となるためお客様に安心してご利用いただけるように開発を進めてまいります。



<黒革デザイン>